国際園芸博覧会の経済波及効果等

横浜国際園芸博覧会のインパクト

1. 経済波及効果

開催に伴う新規需要 5,620~5,760億円 (インバウンド考慮)



経済波及効果 9,440~9,700億円 うち横浜市内分 7,380~7,580億円

- 2. それ以外の効果
- (1)ガーデニング・ブーム(1990大阪花博のケース)
 - ・花博により「園芸」に注目
 - メデイアの取り上げ



花壇苗生産は16倍増 (1990~2002)

(2)会場用地の土地利用

低・未利用地

交通アクセス の整備等

公園・緑地

1. 横浜国際園芸博覧会の経済波及効果(その1)

(1) 経済波及効果とは…

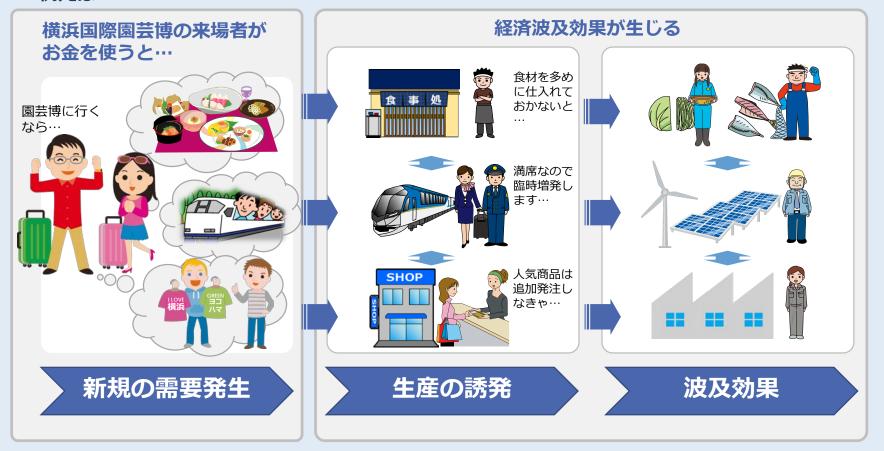
ある出来事が起こることで、

新規の需要が起こり、

それが特定の国や地域にどれぐらいの経済的な好影響があるのかをシミュレートし、

金額で示したもの。

例えば…



1. 国際園芸博覧会の経済波及効果(その2)

(2) 経済波及効果の試算結果

※経済波及効果は2015年産業連関表統合大分類(37部門)と横浜市産業連関表で算出。

横浜国際園芸博の開催に伴う新規需要

建設 投資 敷地内の 施設の 建設

【420~520億円】

(80ha)

(100ha)

主催者による建設:

190億円 ~240億円

220億円 ~280億円 出展者による建設費:

関連 公共投資

【600億円】

600億円

詳細未定:

(80ha)

(100ha)

運営管理費

【830~870億円】

320億円 ~360億円

出展者による運営費: 510億円

来場者消費 1,500万人

うち105万人 インバウンド 【**3,780億円**】 (インバウンドなしの場合 3,270億円)

国内居住者 1,395万人

主催者による運営費:

• 日帰り: 1,116万人

1,640億円

• 宿泊客: 279万人

1,330億円

国外居住者

105万人

800億円

• 園芸博メイン 47万人

720億円

• 園芸博以外: 58万人

80億円

(100ha)

※来場者に占めるインバウンド(国外居住者)比率 は関東地方の観光客に占めるインバウンド比率7%と 同じと仮定。インバウンドの内訳は、愛知万博実績 の内訳比率を参考とした。

(80ha)

計 5,620~5,760億円

経済波及効果

(80ha)

(100ha)

770億円~950億円 (810億円~990億円)

> 1,100億円 (1,170億円)

(80ha)

(100ha)

1.390億円~1.450億円

(1,400億円~1,470億円)

6,190億円

5,410億円 · ※インバウンドなしの試算 /

※上記カッコ内金額は横浜市による試算結果

(80ha)

(100ha)

計 9,440~9,700億円

うち横浜市内分 7,380~7,580億円

1. 国際園芸博覧会の経済波及効果(その3)

(2)経済波及効果の試算結果

うち 花き花木/造園部門

横浜国際園芸博による花き花木/造園部門への新規需要

造園 支出 造園

(80ha) (100ha)

【80~100億円】

※建設投資のうち

※オランダ Floriade 2022の整備単価を 参考に、整備費14,400円/平米、会場面 積の70%が造園面積と仮定して算出。

整備単価は花木苗等の調達費を含む。

維持

(80ha) (100ha)

【40~50億円】

※運営管理費のうち

※オランダ Floriade 2022の6か月間 の庭園維持単価を参考に、維持費 7,500円/平米、会場面積の70%が庭 園面積として算出。

> (100ha) (80ha) 計 120~150億円

経済波及効果

(80ha) (100ha)

150億円~190億円

(80ha)

(100ha)

60億円~80億円

(100ha) (80ha) 計 210~270億円

花壇苗調達 500万株

【7億円】

※造園支出のうち

※平均単価140円/株で500万株調達

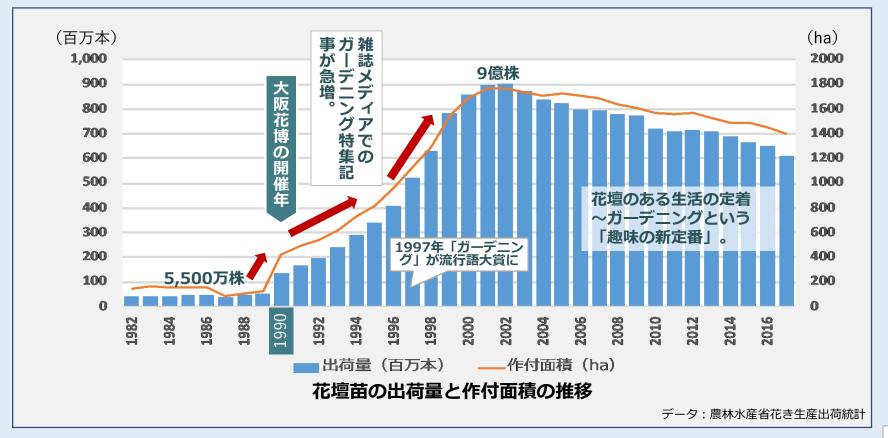
すると想定。

12億円

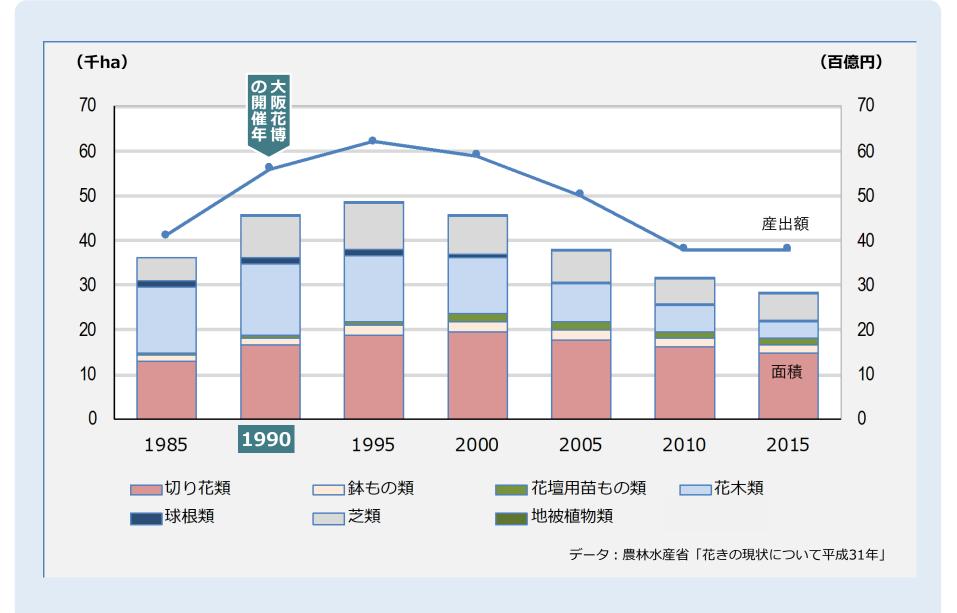
※経済波及効果は2015年産業連関 表基本部類から花き・花木部門を 抽出した統合表から算出。

2. それ以外の効果 \sim (1)ガーデニング・ブーム

- ●大阪花博は花壇苗需要の増加の起点となった…
- ✓ 12年間続いた増加(1990~2002年)で、生産量は16倍増。
- ●メディアが育てたガーデニング・ブーム…
- ✓ 大阪花博の開催で「園芸」が注目される(1990-92)
- ✓ メディアが取り上げてガーデニング特集が急増し花壇苗需要の拡大が加速(1993以降)。



2. それ以外の効果~(参考)花きの産出額・作付面積の推移



2. それ以外の効果~(2)会場用地の土地利用(その1)

(1) 大阪花博 (A1クラス 1990年)

廃棄処分場の都市公園緑地への再編

- 面積約140ha
- もとは湿地帯で、1969年から1973年度まで大阪市の廃棄物処分場。



会場への交通手段として、 大阪市営地下鉄鶴見緑地線 (現・大阪メトロ長堀鶴見 緑地線)を建設。

• 公園として整備され都市公園緑地へ。



出典:BIEホームページ https://www.bieparis.org/site/en/1990-osaka(2019年5月31日閲覧)



出典:鶴見緑地ホームページ https://www.tsurumi-ryokuchi.jp/guide/park.html (2019年9月18日閲覧)

引用資料:「大阪国際花と緑の博覧会」を中心とした国際園芸博覧会に伴う土地利用変化とその背景、ランドスケープ研究 76 (5), 2013。井原縁、奈良県立大学,地域創造学部,教授。

2. それ以外の効果~(2)会場用地の土地利用 (その2)

(2) 淡路園芸博 (A2B1クラス 2000年) 土砂採取跡地の自然回復と公園化

- 面積約96ha
- 土砂採取跡地。



• 自然回復と公園化。



出典: "淡路花博"国際園芸・造園博「ジャパンフローラ 2000」公式記録、発行:国際園芸・造園博「ジャパンフローラ 2000日本委員会」、財団法人 夢の架け橋記念業協会



出典:淡路島 国営明石海峡公園ホームページ https://awaji-kaikyopark.jp/map (2019年9月18日閲覧)

2. それ以外の効果~(2)会場用地の土地利用(その3)

(3) 浜名湖園芸博(A2B1クラス 2005年)

埋め立て造成農地の浜名湖畔公園 への転換

- 面積約56ha
- 浜名湖を埋め立て造成した平坦な農地。



• 水環境を生かした新たな県営公園「浜名 湖ガーデンパーク」として継承。



出典:浜名湖花博 公式記録 発行 財団法人 静岡国際園芸博覧会協会



出典: 浜名湖ガーデンパークホームページ https://www.hamanako-gardenpark.jp/parkmap/town/flower.php (2019年9月18日閲覧)

2. それ以外の効果~(2)会場用地の土地利用(その4)

(4) 横浜国際園芸博 (A1クラス 2027年予定)

返還された通信施設用地の郊外開 発拠点への転換

- 面積約80~100ha(予定)
- 米軍通信施設だった旧上瀬谷通信施設地 区242haが2015年に返還。その一部を 会場予定地とする。



• 会場用地の半分は公園・防災拠点として 継承予定。

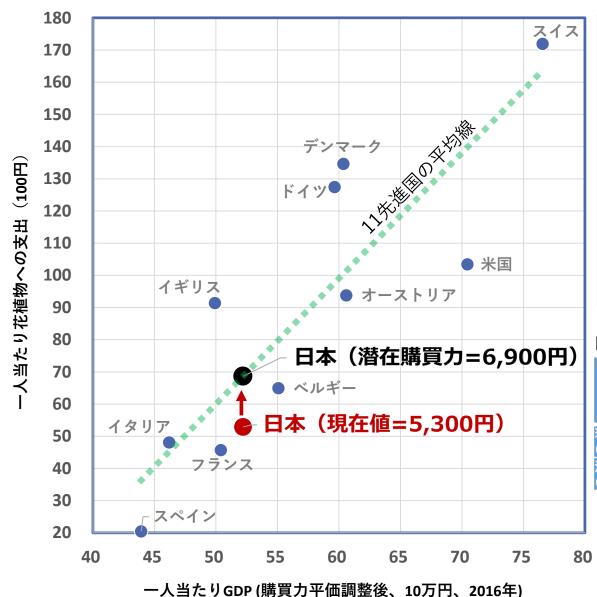


出典:横浜市ホームページ https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukurikankyo/toshiseibi/jokyo/sonota/kamiseya/kamiseysa.html (2019年9月18日閲覧)



3. 国際園芸博覧会を花き産業振興に活かす~(1)購入量のポテンシャル

花・植物への支出の国際比較(2016年)



日本の花・緑の消費量は…

√5,300円/人/年

所得水準から見て…

- √6,900円/人/年ぐらいまで 伸びる余力がある。
 - 伸びしろは「+1,600円」
 - 買いたいという層は存在

日本の花き産業の規模(現状推計・潜在量試算)

	一人当たり 花・植物 購入額 (円)	日本全体の 購入額 (億円) 購入者価格	国内生産額 (億円) 生産者価格	目標まで増 えた場合の 経済効果 (億円)
現状 (2016推計)	5,300	6,700	3,800	-
潜在購買力 (試算)	6,900	8,700	5,400	3,000

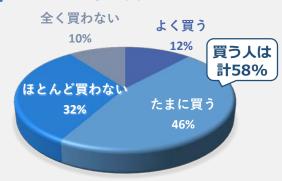
推計/試算データ出所:

- International Statistics Flowers and Plants 2018, AIPH.
- 花きの現状2019,農林水産省.
- 花・植物への追加消費による波及効果は、総務省延長産 業連関表2015基本分類から作成した経済効果波及モデル で試算。

11

3. 国際園芸博覧会を花き産業振興に活かす~(2)アイデア例

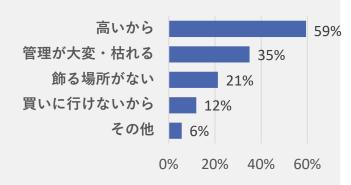
Q. あなたはお花を買いますか?



Q. お花を買うと答えた方、もっと 買う回数を増やしたいと思っていま すか?



Q. 花を「よりたくさん買いたい」という人 が「実際には買わない理由」は?



●園芸博覧会の活用

- メディアとのタイアップ
- 各種イベント(花、市民)
- マーケット拡大
 - コンペティション~園芸博の原点
 - 主要産地のアンテナショップ
 - 内外の市場への売り込み
 - 新ジャンル・新しいライフスタイル提案

●園芸博覧会効果の定着

花を日常的に買う層は58%。 その67%はさらに買う可能性がある…

- 手頃な価格。
- 「日持ち」についての安心感。
- 容易な手入れ。
- すぐ近くで買える。
- 欲しいと思える花をタイムリーに提供。

データ: 花に関するアンケート2015「ほんねリサーチ」

まとめ

国際園芸博の開催は、経済波及効果、花き産業・土地 利用への効果が見込まれる。

1. 経済波及効果

開催に伴う新規需要 5,620~5,760億円 経済波及効果 9,440~9,700億円

- 2. それ以外の効果
- (1) ガーデニング・ブーム(1990大阪花博のケース)
 - ・花博により「園芸」に注目
 - メデイアの取り上げ

花壇苗生産は16倍増 (1990~2002)

(2) 会場用地の土地利用

低・未利用地

交通アクセス の整備等

公園・緑地

参考

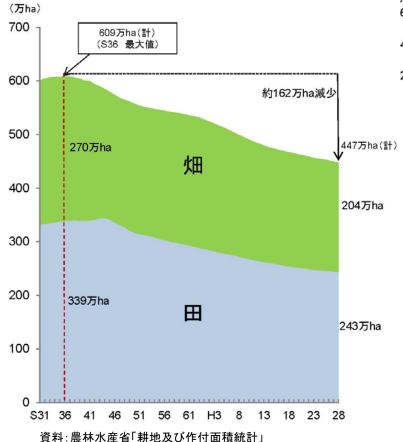
耕作放棄地に関するデータ

農地面積は、主に宅地等への転用や荒廃農地の発生等により、農地面積が最大であった昭和36年に比べて、約162万ha減少。

一方、耕作放棄地(主観ベース)の面積は、平成27年には42万3千ha。

出典:農林水産省「荒廃農地の現状と対策について」(平成29%

○農地 (耕地) 面積の推移



○耕作放棄地面積の推移



資料:農林水産省「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査」、「農林業センサス」

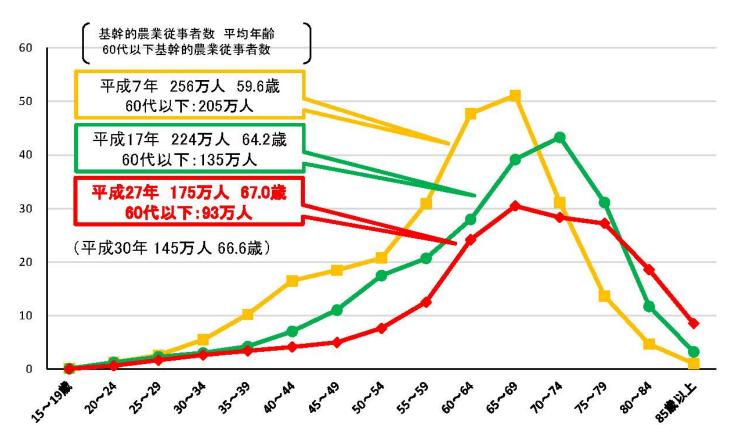
「耕作放棄地」とは、「以前耕作していた土地で、過去1年以上作物を作付けせず、この数年の間に再び作付けする意思のない土地」。

農村人口の高齢化に関するデータ

○我が国の農業を支える基幹的農業従事者は年々高齢化し、今後一層の減少が見込まれることから、担い手の確保が困難となり、農業の持続可能性が懸念される地域が発生する可能性がある。

出典:農林水産省「担い手をめぐる情勢について」(令和元年9月)

○基幹的農業従事者の年齢構成



資料:農林水産省「農林業センサス」(組替集計)、「農業構造動態調査」